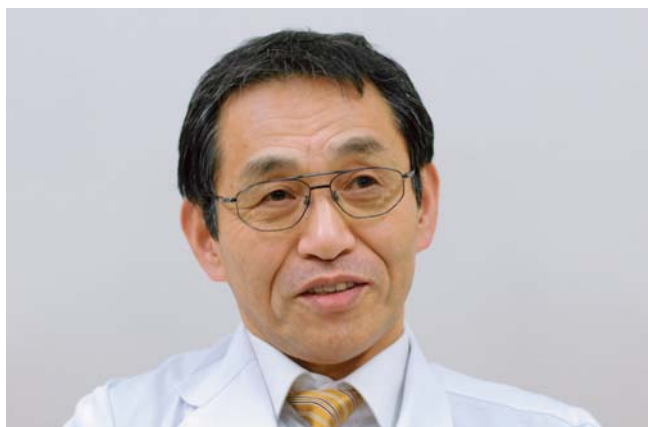


## JMA東埼玉総合病院

# 専門性の高い医療チームを核に 糖尿病プログラムを地域で。

2008年秋、JMA東埼玉総合病院と地域の開業医の連携をベースとした糖尿病治療プログラムがスタート。「糖尿病患者を地域のチームワークで支えたい」、同院と開業医が協力して糖尿病患者の治療や罹患予防に生かす取り組みだ。同院の専門ケアチームのスタッフに、プログラム成立の経緯と実際に聞いた。



院長  
高井 孝二 先生



代謝内分泌科  
中野 智紀 先生

### 地域連携システム構築で 糖尿病プログラムを活用

JMA東埼玉総合病院は、主として糖尿病治療ですぐれた実績を上げつづけ、専門スタッフの育成にも力を注いでいる。院長で糖尿病の専門医でもある高井孝二先生は、同院の運営の陣頭指揮をとりつつ、糖尿病治療を進展させる方法に関して常に思いを巡らせてきた。

近年、患者数が急激に増え、潜在患者も含めれば全国に1,870万人以上の患者がいると言われる糖尿病。同院の周辺地域では、総合病院の糖尿病診療科の閉鎖や深刻な医師不足、

医療難民の発生などが起きていた。こうした状況を背景に、同院の糖尿病外来は限界に近い状態に至っていたのである。そこで、高井先生は糖尿病治療の進展に向けたアイデアを盛り込んだひとつの対応策を導き出す。

「来院される糖尿病患者さんに対応していくには、当院の医療資源だけでは難しいのが現状です。他方で、地域には多くの医療資源が潜在しています。地域の医療機関がともに協力して患者を支えていくところこそが、問題解決の糸口だと思いました」

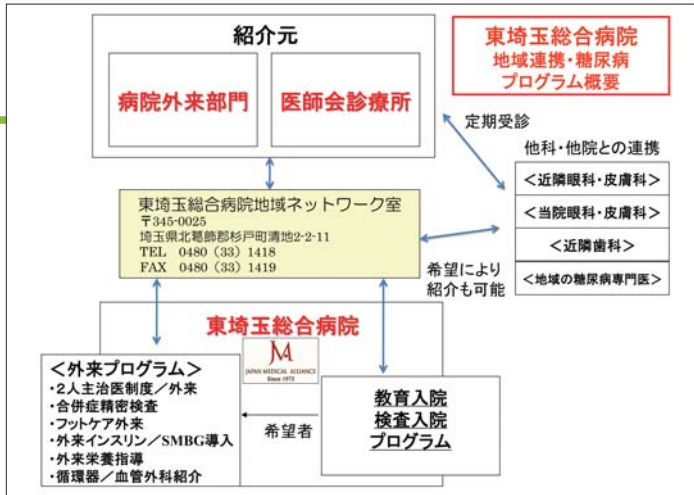
糖尿病患者のための地域連携による糖尿病治療プログラムの導入——そのアイデアを実行・推進する実務者

として高井先生が白羽の矢を立てたのが、同院代謝内分泌科の中野智紀先生だった。中野先生は、米国や国内の専門施設で行動医学や教育心理学を用いた先進的な糖尿病教育を学んだ人物だ。

「私も糖尿病治療における地域連携について、以前からアイデアを持っていました。高井先生のかげ声のもと、実際に形にできたのは、仲間たち（スタッフ）の存在と、医師会の先生方、保健所の方々のご支援のおかげだと思っています」

高井先生から指名を受けた2ヵ月後の2008年6月、中野先生は医師会を通して、栗橋町、幸手市、杉戸

【資料1】東埼玉総合病院地域連携・糖尿病プログラム概要



すべてのプログラムから、必要なときに、必要な分だけご利用になれます  
 ・入院コースは当院外来を介さず、貴院からの「直入直帰」でご利用になれます  
 ・すべてのコースは電話で予約可能です(地域ネットワーク室 ☎0480-33-1418)

**<入院コース>**

1. 糖尿病合併症検査入院 (1泊2日入院)
2. 糖尿病教育十合併症検査入院 (3泊4日入院)

※その他、血糖コントロール目的や合併症治療目的などの通常の入院は以前と同様に行っております

**<外来コース>**

1. 2人主治医プログラム
2. 外来インスリン導入
3. 糖尿病療養指導外来(外来患者教育、低血糖時指導、口腔ケアなど)
4. フットケア外来(処置可能)
5. 管理栄養士による集団・個別栄養指導
6. その他 (CT、MRIの画像機器のみの利用、内視鏡のみの利用、肺炎球菌ワクチン接種/インフルエンザ予防接種など)

町、宮代町、春日部市という周辺地区の診療所と保健所へのアンケート調査を実施した。「有効回答率は70%に及び、地域の医療機関の『連携が必要』との意識は思っていた以上に高いと知りました。医師会の先生方からあたたかい激励の言葉もかけていただき、これならやっていると気持ちになれました」(中野先生)

9月には地域の開業医を対象とする第1回の説明会が開かれ、翌10月、糖尿病治療プログラムのための地域連携ネットワークが稼働し始めた(【資料1】)。

**開業医と機能分担をともに患者をサポート**

同プログラムの特徴は、「2人主治医制」と「連携プログラム」だ。「2人主治医制」とは、専門家(東埼玉

総合病院を含む地域の糖尿病専門外来)と実地医家(開業医)が患者情報を共有し、役割分担をしながら地域で患者を支える仕組みを意味する。「連携プログラム」とは、たとえばフットケア外来や教育プログラム等、同院が提供する入院・外来など種々の医療サービスを、地域の開業医や患者が必要なときに必要な分だけ自由に利用できる仕組みだ。

「連携パスで患者さんの医療情報を共有し、開業医の先生と当院の間では簡単な手続きで連携、優先予約が行えます」(高井先生)

「連携プログラム」の中でも先進的なのは「糖尿病教育プログラム」。情報提供主体の「糖尿病教室」ではなく、教育心理学や社会心理学、行動医学を臨床応用し、糖尿病患者の動機づけや、継続のための実践的な知識や技術の修得により、心理

社会的問題に対処していく。このプログラムの導入で本領を発揮することになったのが、同院糖尿病チームのスタッフたちだ。

「院内には高井先生が育ててくれた優秀なスタッフが何人もいます。当院の誇りはスタッフのすぐれた人間性。本当に各自の意識が高く、患者さんに優しい。プログラムを利用された患者さんに喜んでいただけているのは、彼女たちのおかげ。まだまだ原石かもしれませんが、年々実力をつけており、質の高いチーム医療が実現しつつあります」(中野先生)

チームの主だったメンバーは看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、社会福祉士、地域ネットワーク室スタッフ、病歴管理室スタッフの13名。うち4名は糖尿病療養指導士(CDE)の資格を有する。

「資格は病院からの指示ではなく、メンバーたちが自発的に取得したものだ。しかし、これまではせっかくの専門性が十分には生かされていませんでした。現在は、中野先生という有能なオーガナイザーが現れ、プログラムがスタートしたことで、メンバーたちの実力ややる気が存分に発揮されています」(高井先生)

**DATA**

社会医療法人  
 ジャパンメディカルアライアンス  
 東埼玉総合病院  
 所在地：〒345-0025  
 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地2-2-11  
 TEL：0480-33-1311  
 URL：http://www.jinai.jp/www-saitama/index.php  
 病床数：193床  
 診療科目：内科、循環器科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科  
 \*同院ホームページより転載

【資料1】：中野智紀先生より

# 糖尿病療養医療チームの リーダーは医師ではなく看護師

## チームメンバーたちの実践、成果、課題

患者やその家族に対応しているメンバーの皆さんは、それぞれの専門領域で責任を持つプロフェッショナルとして活躍している。



### 間中 昌利氏

看護師・糖尿病療養指導士

糖尿病チームのリーダー、フットケア・  
種々の生活指導を担当

患者さんの話をよく聞く姿勢を大切にするとともに、どれだけの知識と治療に取り組む意気込みがあるかの把握が重要だと思いつつ、患者さんに接しています。セルフケアの指導から心のケアまで、叱咤激励ではなく、あくまでサポートをする気持ちを大切にしています。

### 志村 祐子氏

管理栄養士・糖尿病療養指導士

食事療法の指導を担当

栄養指導に限らず、プログラムでは参加・体験・実践型の指導を行っています。また、患者さんに合わせたピンポイントの指導をするようにしています。実効性が高く、長くつづけられる栄養指導で患者さんの検査数値にいい変化が表れると、達成感があります。

### 石飛 裕樹氏

医療相談室・社会福祉士

家族機能への介入と  
Social skill training (SST) を担当

プログラム終了時の思いや決意を『自分への手紙』として患者さんに書いていただけており、それを3ヵ月後に病院から発送しています。そうすることで振り返りの機会をつくり、患者さんがモチベーションを維持できるよう工夫しています。おかげさまでこの取り組みは好評です。

このほか吉田浩之医師、矢嶋宮子看護師、武内志保氏（病歴管理室・事務）、奥村理恵氏（地域ネットワーク・事務）を含め、総勢13名がチームメンバーとして地域の患者を支えるために奮闘している。

### 長山 千枝氏

看護師・糖尿病療養指導士

糖尿病教育プログラムの統括と  
フットケア・種々の生活指導を担当

わずか数日しかない短い入院期間中に患者さんを理解するのは難しいです。しかし、退院した日からも患者さんがつづけていける目標をいっしょに見つけられるように、積極的に患者さんにかかわっていきたいと思っています。

### 橋本 健一郎氏

理学療法士

運動療法の指導を担当

義務になってしまう運動は長続きしませんから、退院後も継続できるよう、簡単な課題を生活の中に取り入れていただいています。小さな成功体験の積み重ねの中で生まれる『運動は楽しい、気持ちいい』といった思いが、運動に対する大きな動機づけになったり、自信につながると思うからです。

### 鈴木 圭子氏

地域ネットワーク室・事務

病院と開業医、  
患者の間を結ぶ受付業務を担当

顔の見える連携、情報のスムーズな伝達に腐心している最中です。連携が根づくまでは、地域の先生方や患者さんのご負担も大きいと思いますが、それができるだけ小さくなるようお手伝いしていきます。また、現在、他の医療機関からも見られる電子カルテの導入を計画しています。

### 佐々木 明子氏

薬剤師・糖尿病療養指導士

薬物療法の指導を担当

話をうかがっていると、患者さんの中には、単に習慣的に薬を服用している一方、インスリンを誤解している方などもいらっしゃいます。正しい知識や情報を伝え、栄養や運動に加え、薬でもコントロールしながら上手に病気とつき合う方法を理解していただきたいと思っています。

### 山崎 愛氏

医療相談室・社会福祉士

家族機能への介入と  
Social skill training (SST) を担当

中野先生から2つのテーマをいただきました。ひとつは、患者さんが人からの支援を上手に得られるようにするための訓練（SST）の実施。もうひとつは家族機能への介入。つまり家族が患者さんに良いサポートを提供できるようにすることです。コミュニケーション不足でギクシャクした関係だった父娘が、プログラムの中で互いを思いやる気持ちを知り、涙される場面に出会うなど、やり甲斐を感じます。心がけているのは徹底的に患者さん側に立って、考える姿勢です。

### 須貝 和則氏

病歴管理室・診療情報管理士

クリニカルパスの管理、  
外部への情報の管理・発信を担当

プログラムには、患者ボランティアさんが担当するプログラムもあります。ご自身の経験した想いや悩みなどを語ってくださいます。それが患者さん同士で話し合うきっかけとなったり、糖尿病を抱えた人生や生きていくことの本質を考える動機づけにもなるなど効果を上げています。